



テーマ「2つのアンテナ ～子供の言動に対する瞬時の対応～小1生活科どろんこあそび」

I 導入場面にて

T 今日から新しい勉強を始めるよ。

B（板書）「どろんこあそび」

C1 俺、幼稚園で、どろんこあそびした！！（ぶんぶん怒りながら）

Q1 こんな子供に、何というか？

★ 子供が、にこにこして言うのと、ぶんぶん怒りながら言うのとでは、**その裏にある「思い」**が違う。

★ 子供は、小学校に入学したら、園児の自分とは変わった気になっている。
子供は、もっと、もっと大きくなりたい、成長したいと願っている。

<例>

T そうか、〇くんは、園のどろんこあそびで何したの？

C1 砂で、山をつくった。

T みんなもしたの？

C2 やったよ、やったよ、団子もつくった、ままごとした…

T その山をつくった〇くんは、保育園の〇くんだね。

1年生になった〇くんは、同じ山をつくらうなんて思っていないよな。

毎回片付けたら、でっかい山できない。だから、片付けなくていいよ。

★ 導入のポイント

①「この後の遊んでいる姿」を自分で思い浮かべられること → 意欲

②「自分でできそう、できる」と思えること → 見通し

C3 どうして先生は、どろんこあそびをさせたいのですか？

T どろんこあそび大好き。

先生もみんなとどろんこあそびしたら、楽しいと思ったからだよ。

C3 私は、どろんこあそび、大嫌い。

どろんこ「あそび」だから、やりたくないなら、しなくていいですよ。

Q2 こんな子供に、何と言って対応するか？

<例>

T 1回みんなの様子を見て、おもしろそうだったらやってみたら？

C3 やらなくてもいい？

T いいよ。でも、生活科の勉強だから、他のことをして遊ぶことは、許されません。ジャングルジムの上から見てもらいます。いいですか？

2 活動場面にて

C4 (近寄ってきて) 先生！ 砂掘ったら、穴は冷たかったよ！

Q3 こんな子供に、どういう対応をするか？

▲T 他のところはどう？

→ C4 他のところは、知らないけど…

▲T みんなにも教えたいな。

→ C4 別に教えたいと思ってないよ…

▲T なんで冷たいのだろうね？

→ C4 さあ…



★ わざわざ、子供が教師のところに言いに来た行為そのものの「意味」は何か？

→ 伝えたい何かがあるから

<例>

T (C4 児の掘った砂の穴に手を入れて)

本当だね！！ ○くんのいうとおりだね。【共感的受け止め】

★ 「自分の気持ちを先生は同じように感じてくれた」と思ってもらえる

共感的な受け止めに その子供になりきって感じる

Q4 この子供は、どんな気持ちを分かってほしいのか？

★ 2つのアンテナ

① 何を言ったか

② 何を分かってほしいか、感じてほしいか

2つのステージで対応する。

◇ ステージ① 共感的理解（認める段階）

言いたくなって教師のもとに来ている。

そんな、子供の気持ちをまるごと感じてやる。

なぜ、そう言っているのか？

→ そういうことを教師にも感じてほしいから。

▲ 言った「内容」だけで、ペシンと対応してはいけない。

○ 言った「内容」と、言おうとした「思い」をほめる。

◇ ステージ② 思いに沿った支援の段階

がんばろうという気持ちを高める。



Q5 なぜこの子は「上は熱く、中は冷たい」が気になっていたのか？

この日までの1週間、ただひたすら山とトンネルをつくっていたC4児だった。
砂の冷たさ、熱さを調べてきたわけではない。

この日もトンネルを掘っていた中で、「穴の奥は冷たい」とたまたま見つけた出来事だった。

教師の思い込みで、「温度の違い」についてこの後追究をさせてはいけない。

- ★ その子供が望んでいることを強める支援が大切
支援は、その子供の思いに沿っているかどうか
(子供の思いとずれていれば、支援とはならず大きなお世話となる)
- ★ だからこそ、子供のノート(記述)を読み、捉えることが大事
子供の追究の過去から、今
 - ・ この子供は、何を解決したいのか
 - ・ 今、何をしようとしているのか
 - ・ どういう育ちで
 - ・ どういう状況なのか



Q6 その子供の思いに沿った「未来への支援」はどうすればよいか？

T 本当だね!! ○くんのいうとおりだね。【①共感的に受け止める】
○くんは、この後、何したいの? 【②思いを聴く】

C4 トンネルまだまだ掘るよ。
T 貫通したら教えてね。

C4 熱い、冷たいを調べたい。
T 調べて分かったら教えてね。

その子供の思いに沿うことを大切に

- ★ 2つのステージでの対応
 - ① 共感
 - ② 思いを捉えた上での支援

「言葉」と

その裏にある「思い」を捉えて (子供が「受け止めてもらえたぞ」と思えるように)
適切な支援を

子供の信頼にこたえていく

